Selecting　Children

要約

私たち人間は、今まで様々な方法を使って子供の形質を決めようとしてきた。羊水穿刺では染色体の異常や、消耗性の発達性欠損を生まれる前に知ることができる。現在の遺伝子検査技術により、親はかなり初期の段階から望みの形質を持つ子供を選ぶことができる。最近、着床前遺伝子診断が、新生児がその姉の命を救うために行われた。その姉は稀な遺伝疾患であるファンコニ貧血であった。ファンコニ貧血の患者はある毒素のためにDNAの損傷を適切に修復することができない。主として骨髄が病気になり、結果、血液細胞全種類が減少し、赤血球の減少で貧血になる。白血球の数も少ないため、DNAの損傷を白血球が適切に修復できず、感染や白血球のリスクが高い。ファンコニ貧血は、骨髄移植や（造血）幹細胞移植により治療される。拒絶反応のリスクが低くなるため、ドナーはできれば親や兄弟姉妹が望ましい。骨髄移植に比べ、難しいが、拒絶反応のリスクが低いため、幹細胞移植がより好まれる治療の選択肢である。幹細胞は新生児のへその緒に多く含まれている。

着床前遺伝子診断の間、胎児の細胞が取り出され、家族内に伝わる疾患を検査する。今回の事例では、医者は胎児が健康で、姉のためになるかを知りたかった。両親は体外受精し、結果生じた15の胎児を、ファンコニ貧血でなく、娘と認識タンパク質が同じものかを調べた。この条件を満たすものは2つあったが、１つだけを子宮に着床させ、それは健康な男の胎児となった。胎児のへその緒から摘出された幹細胞は、姉の貧血治療に使われ、治療は成功した。

（遺伝子スクリーニングを行った医師には、病気を持つ子供の親のための処置実施について数多くの質問がとどいている。）

今回やその他の似た事例から、遺伝形質に基づく出産前子供選択に関する倫理的問題が数多く生じた。AMAは病気に関係しない形質に基づく選択は非倫理的であると主張する。しかしながら、AMAの倫理的法的問題に関する協議会の議長は医学的理由で子供を選択したので、この事例を例外とした。この件で体外受精を手伝ったJacques　Montagut医師は他人を治療するために子供を作ることは危険だと考え、それを生物学的奴隷の新しい形にたとえている。未だに子供はもっと利他的でない理由、背の高さ、体の能力、知能などでない理由で選ばれるべきだ

Decide Your Opinion

1. 与えられた命をモノとして扱わず、愛情を持ってその子を育てるとすれば何の倫理的問題も生じないと思う。
2. 弟に何か代償を与える必要はないと思う。むしろ彼は、将来自分の姉を救うことができたことを誇りに思うであろうと思う。
3.
4. 一人でも多くの人に幸せを与えたいので、喜んで私は提供する。